

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：34305

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12850

研究課題名（和文）宗教空間の現象学的再考 九州の阿弥陀信仰のロゴス

研究課題名（英文）A new phenomenological approach to religious space: The logos of Amida faith in Kyushu

研究代表者

リュウシュ マルクス（Ruesch, Markus）

京都女子大学・文学部・講師

研究者番号：40881488

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題の成果は主に三つのテーマで説明できる。一つは、長崎県と佐賀県の阿弥陀空間であり、その文脈では巡礼と真言密教に注目した。特定の宗派に限定できない事例として、阿弥陀信仰がどのように特定の地域に根付いたかを明らかにした。

もう一つのテーマは秘密空間と民間信仰である。具体的には「浄土真宗」とその周辺にある四つの宗教集団を分析し、政治的あるいは宗教的な理由によって隠れた念仏グループとその儀礼空間を明瞭にした。

三つ目はデジタル空間である。コロナパンデミックが仏教界にも大きな影響を与えたため、それにともなって変貌した仏教の儀礼空間およびその背景にある教義の具体的な内容を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題では、これまで対立する傾向にあった文献学的宗教学と物質的な側面に注目する宗教学の横断的研究方法を提示した。実際に身体をとおして体験する空間の客観的な情報に加え、教義書や地図を並行に分析の対象にしたため、実生活に繋がる文献学的宗教空間研究の可能性を明らかにした。

また、信仰者などが抱える空間理解を参照しないため、特定の信仰に限定せずに宗教空間の構造とその魅力を提示することを試みた。九州には、長い歴史を有する宗教施設が多くあるが、訪問者数が徐々に減少する例が稀ではない。本研究課題の社会的意義は、忘れられつつある宗教空間の情報を共有することと、日本仏教の多様性を明瞭にすることである。

研究成果の概要（英文）：The achievements of this project can be categorised into three major areas. The first area pertains to the Amida space in Nagasaki and Saga prefectures, focusing on pilgrimage and Shingon esoteric traditions. The analysis encompassed multiple Buddhist sects, enabling an exploration of how the Amida faith became rooted in its respective regions.

The second area concerns secret spaces and lived religions. Specifically, the project examined four groups belonging to different extents to what we would call 'Jodo Shinshu' today. The objective was to elucidate the religious motivations and spaces associated with these Nenbutsu groups, which operated clandestinely for political or religious reasons.

The third area focuses on digital space. In light of the COVID-19 pandemic's impact on Buddhist practices, the project investigated the transformation of Buddhist ritual spaces and the evolving doctrinal content beyond the spatial dimension.

研究分野：宗教学

キーワード：阿弥陀信仰 九州 空間 民間信仰 現象学 神仏習合 山岳信仰 デジタル空間

1. 研究開始当初の背景

本研究では、九州の空間が表現する阿弥陀信仰に注目する。研究代表者は、空間が宗教にとって物理的な場を与える意味での補助的な研究対象にとどまらない、宗教を表現し創造する独自の機能を有するものだと考える。

その空間分析の目的は、空間をとおしてこれまで対立する傾向にあった文献学と民俗学とを融合させ、前者の普遍性と後者の具体性との両方の長所を活かし、学際的な阿弥陀信仰理解を提示することである。

具体的には、フィールドワークをとおして実際の空間とそれにまつわる宗教行為とともに特定の宗派を超えた「阿弥陀」に関する教義書を分析し、九州独自の阿弥陀空間を明らかにする。

2. 研究の目的

本研究では、九州の阿弥陀空間に焦点をあて、従来傾向的に対立にあった史料調査・文献分析と現地でのフィールドワークとの両方を行う。本方法の応用により、これまで「正統」の概念の偏重によって見逃された阿弥陀信仰の新義の提示を目的とする。本プロジェクトは、主に次の3本の路線からなるスケジュールで取り組む。

【(1) フィールドワークと文献調査】

内陣というスケールから巡礼の空間まで多様な空間に登場する阿弥陀を分析する。それによって、宗派に囚われることなく、日本仏教全般を表現する阿弥陀理解を解明する。

【(2) ショート動画と出版による成果発表】

フィールドワークで収集したデータと文献分析の結果に基づき、九州諸県における代表的な例をショート動画で紹介する。その動画は学術的な利用者と一般者を対象にする。それと並行に学術雑誌の投稿論文を準備する。

【(3) データベース作成】

研究者および一般利用者を対象に、フィールドワークで収集した情報と境内の平面図などをウェブで公開する。

3. 研究の方法

【(1) フィールドワークと文献調査】

2021・2022年度は、沖縄を除き九州各地でフィールドワーク調査を実施した。それぞれの地域に合わせ、主に次の観点に焦点を当てた。

福岡県	神仏分離、密教
佐賀県	山岳信仰、新興宗教
長崎県	黄檗宗寺院、巡礼、密教
大分県	巡礼、神仏分離、磨崖仏
熊本県	隠れ念仏、浄土真宗寺院
宮崎県	隠れ念仏、民間信仰
鹿児島県	隠れ念仏、磨崖仏

フィールドワークの方法は、360度写真を含めた写真撮影と現地資料収集である。研究代表者が利用する現象学的アプローチでは、一般信者や住職の宗教体験が対象ではないため、客観的に分析の対象となりうる情報に焦点をあてた。文献調査の文脈で分析された資料は、フィールドワーク地の図書館・資料館および一般的に公開されている関連出版物であった。

【(2) ショート動画による成果発表】

本研究課題の目的は、阿弥陀信仰の多様性を明らかにすることであり、その成果を二つの方法で公開した。一つは、視覚的で分かりやすく10分程度にまとめたショート動画である。動画の編集はiMovieで行なった。もう一つは、学界における成果発表のための学術雑誌における研究論文の投稿である。

【(3) データベース作成】

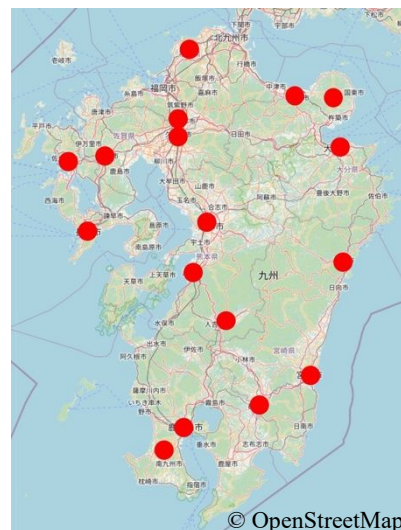
フィールドワークにおいて収集したデータは他の研究者も活用できるようにウェブで公開した。そのデータベースは研究代表者が所属している研究機関経由でリンクされるホームページに保存されており、オープンアクセスのものである。内容は、寺社名・住所・宗派・本尊・平面図などを含めた寺社の基本情報である。そのデータベースはPostgreSQLで作成されたもので、今後も順次更新するものである。

4. 研究成果

【(1) フィールドワークの成果】

研究課題期間中に上述した各地の調査の主な関心に合わせフィールドワークを実施することができた。そのデータは、すべての研究成果の基盤を築くものであり、主な訪問先は下記のとおりである。

福岡県	宗像大社、鎮国寺、善導寺、六所宝塔跡
佐賀県	黒髪山、定林寺、二階寺、本福寺、瀧光徳寺
長崎県	興福寺、崇福寺、長崎四国八十八ヶ所霊場の寺院、清水寺、深崇寺、大智院
大分県	宇佐神宮、富貴寺、国東半島の磨崖仏、霊山寺
熊本県	西光寺、順正寺、明導寺、城泉寺阿弥陀堂、正教寺、安養寺
宮崎県	今山大師、真栄寺、安楽寺、かくれ念仏洞
鹿児島県	かくれ念仏洞、鹿児島別院（浄土真宗本願寺派・真宗大谷派）、清水磨崖仏



【(2) 長崎県と佐賀県の阿弥陀空間：巡礼と真言密教に注目して】

本テーマでは、超宗派的な観点から阿弥陀の役割の多様性を分析した。一つの分析対象は、長崎四国八十八ヶ所霊場という巡礼であった。阿弥陀を本尊とする霊場での役割を分析することによって、各寺院あるいは札所の宗教空間が成立する条件とその応用性を明らかにした。また、真言密教の例として、黒髪山と大智院（真言宗大覚寺派）を分析した。その寺院は、基本的に真言密教の構造に従っているが、佐賀県の黒髪山の三所権現（阿弥陀・薬師・千手観音）および空海の伝説により独自の宗教空間を構築している。黒髪山の事情に加え、大智院が明治期に佐世保市に移転したことにより、広範囲の宗教空間が成立した。その分析の結果は「Amida-Glaube in Nagasaki und Saga」で公開した。

以上のテーマに関連して、宗教空間を「写す」という行為について考察し、学会発表を行なった（「Identität und Raum」）。また、「巡礼」という宗教空間の現象学的分析にあたり、参詣曼荼羅についてフィールドで収集した情報と文献の情報を合わせることによってその宗教空間の概念を明らかにすることができ、口頭発表で公開した（「西国巡礼における参詣目的」）。

【(3) 秘密空間と民間信仰】

本テーマでは、浄土真宗の「秘密空間」とその民間的応用に注目した。具体的な内容としては、「秘事法門」として知られている「隠し念仏」および政治的な理由によって禁止されていた「隠れ念仏」、そして鹿児島の土着の信仰である「カヤカベ」および「ののさん」を取り上げた。浄土真宗の正統な教義理解を教義論争であった三業惑乱に照らし、その共通点と相違点を明らかにした。分析を行うために、教学だけではなく、研究課題の中心的関心にある空間的アプローチを活用した。したがって研究代表者は、その報告において儀礼空間と特定のコスモロジーを意味する空間とを分析し、「念仏」あるいは「阿弥陀」の理解の多様性を明らかにした。

以上の内容は、複数の口頭発表（「Jōdo Shinshū Practices in South Kyushu and Their Meaning in Defining Jōdo Shinshū Orthodoxy」等）および共著（「Secret Spaces for Amida」）において公開した。

【(4) デジタル空間：コロナによる宗教空間の変貌に注目して】

パンデミックと仏教というテーマに関して宗教現象学的なアプローチから近年のコロナパンデミックと宗教空間について分析した。主な分析対象は、コロナが仏教界とその儀礼空間（法要および葬儀）に与えた影響であり、報告の目的は日本仏教の諸派の立場と儀礼の変化を明らかにすることであった。本報告は空間の観点から特定の問題を明瞭にし、それによってパンデミックがもたらした儀礼の物質的な側面と目的との長期的な変化を明らかにすることができた（「パンデミックと仏教諸派」、発表内容は論文集において出版される予定である）。

それに加え、儀礼のデジタル化に注目し、宗教音楽である「声明」が空間創造の過程において果たす役割について論じた口頭発表がある。その発表では、アドルノの音楽論を利用し、現代の声明および儀礼の状況と空間変貌の学術的意味について考察した（「現代声明とメディア」）。

【(5) その他の成果と今後の課題】

以上のテーマの他に、主に二つの成果がある。一つは、円仁を中心に天台宗における常行堂について論じた発表である。論点は、円仁によって計画された延暦寺の三つの地域の宗教空間的構造と其中的常行堂の位置と役割であった（「Spatialisation of Thought」）。もう一つの報告では、伝記に見る空間および建築そのものを手がかりに親鸞の教義を明らかにした（「親鸞伝の世界」）。

研究代表者は以上の報告によって、九州の阿弥陀信仰の諸相を解明し、空間研究が宗教学に貢献できる新側面を提示することができた。本研究課題で収集した情報を活用し、2024年以内に九州の神仏集合の現在について論文を投稿し、データベースをさらに充実させる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Markus Ruesch	4. 巻 5
2. 論文標題 Amida-Glaube in Nagasaki und Saga: Pilgern und Beten	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 OAG Notizen	6. 最初と最後の頁 11-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Markus Ruesch	4. 巻 32
2. 論文標題 Secret Spaces for Amida: Their Functions in Rituals and Their Doctrinal Backgrounds	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Cahiers d'Extreme-Asie	6. 最初と最後の頁 95-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 3件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 コロナパンデミックが宗教空間に及ぼした影響：日本における仏教儀礼の変貌
3. 学会等名 京都大学「ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論に向けて」研究班
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 Identitaet und Raum: Wie viel Freiheit erlaubt Kopieren (utsushi 写し)?
3. 学会等名 Arbeitskreis japanische Religionen
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 西国巡礼における参詣目的：参詣曼荼羅にみる空間構築と利益
3. 学会等名 世界仏教文化研究センター若手研究者研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 Spatialisation of Thought: Constant-Walking in Tendai Buddhism and the Interdependence of Halls for Practice
3. 学会等名 International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 Amida-Glaube in Kumamoto, Saga und Nagasaki: beten, pilgern, verbergen
3. 学会等名 Deutsche Gesellschaft fuer Natur- und Voelkerkunde Ostasiens (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 Secret Spaces for Amida: The Function of Hidden Space in Rituals and their Doctrinal Background (Edo Period)
3. 学会等名 Kitashirakawa EFE0 Salon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 現代声明とメディア：アドルノの音楽論から照らす日本仏教儀礼
3. 学会等名 世界仏教文化研究センター若手研究者研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 パンデミックと仏教諸派:教義・儀礼・葬儀
3. 学会等名 ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論に向けて(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Markus Ruesch
2. 発表標題 'Jodo Shinshu' Practices in South Kyushu and Their Meaning in Defining Jodo Shinshu Orthodoxy
3. 学会等名 European Shin Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 リュウシュ マルクス
2. 発表標題 親鸞伝の世界
3. 学会等名 京都女子大学 生涯学習講座
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

「Amida-Glaube in Kumamoto, Saga und Nagasaki」発表録画
<https://vimeo.com/631086682>
寺院データベース
<https://www.uni-muenster.de/EvTheol/personen/ruesch.shtml>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------